

仮称 第4給水場建設基本・実施設計業務



(仮称) 第4給水場建設基本方針

～ 総合目標 ～

泉町3丁目の新用地に、水道事業の根幹となる配水施設を建設し、現第1給水場の施設更新と併せて総合的に機能充実を図り、安全で高品質な水道水の安定給水を目指とする。

【基本理念】

【基本方針】

【具体的な事例】

地域社会と
調和した
施設整備

- ・ 周辺地域との調和
- ・ 良好な住環境の維持

- ・ 既存の住環境やハミングロード等、周辺環境に調和した施設を整備する。
- ・ 騒音、振動、臭気等の発生を極力抑えて、良好な住環境を維持する。

ライフラインを守る
災害に強い
施設整備

- ・ 耐震化された施設の構築
- ・ 非常時に対応できる設備の構築
- ・ 重要施設のバックアップ体制の構築

- ・ 現行の耐震基準を満たし、大地震時でも、その機能を維持できる施設を構築する。
- ・ 地震、停電、漏水等の非常時にも、応急給水ができる設備を構築する。
- ・ 施設や設備が機能を失った場合でも、給水ができるように、バックアップ体制を整備する。

経済性を
考慮した
施設整備

- ・ 現有施設の有効活用
- ・ 最少の経費で最大の効果

- ・ 既存施設を有効活用し、必要最低限の施設整備とする。
- ・ イニシャルコスト、ランニングコスト等を総合的に判断し、費用対効果を常に考慮する。

環境に
やさしい
施設整備

- ・ 自然エネルギーの有効活用
- ・ 温室効果ガスの削減

- ・ 太陽光発電、小水力発電等の再生可能エネルギーの活用を検討する。
- ・ 高効率機器を導入し、電気使用量の軽減に努めることにより、CO₂等の温室効果ガス削減を図る。

将来を
見据えた
施設整備

- ・ 将来変動する水需要への対応
- ・ 安定した水源の確保
- ・ 用地の有効活用

- ・ 50年後、100年後の水需要の変動に対して、柔軟に対応できる施設を整備する。
- ・ 地下水及び北千葉広域水道企業団からの受水を水源とし、必要な水量を継続して取水できる施設を整備する。
- ・ 将来を見据えた施設配置を検討し、維持管理用地や拡張スペースを確保する。

＜第1給水場 老朽化施設・設備の現況＞



配水ポンプ(S50年)



2号配水池(非耐震;S35年)



3号配水池

送水ポンプ井

3号配水池 (非耐震;S39年)
送水ポンプ井(非耐震;S61年)



配水ポンプ廻り配管(S50年)



受変電設備(屋外;S61年)



自家発設備(地下;S55年)

第1給水場更新工事

第1給水場の現況

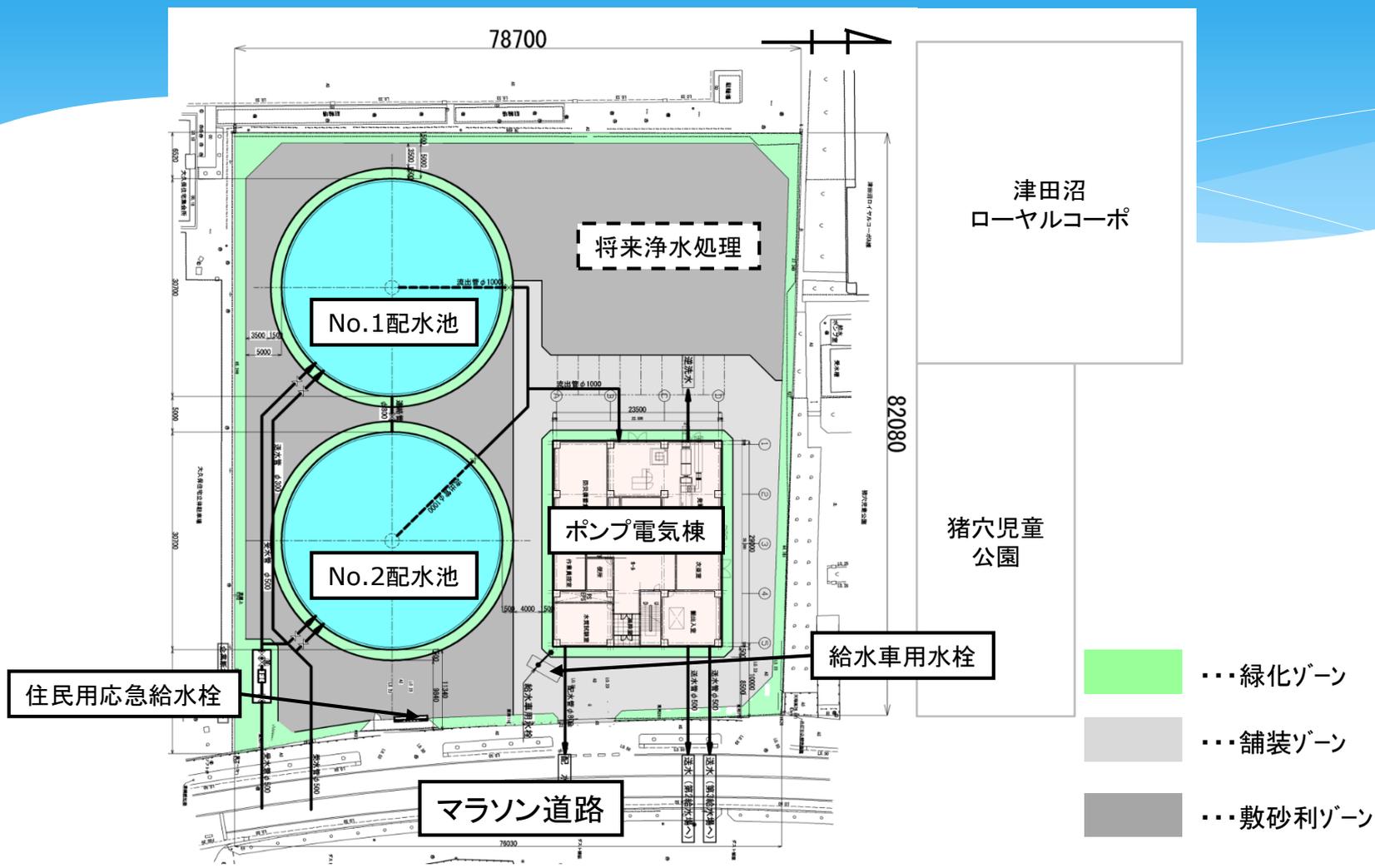


第1給水場 完成予定図

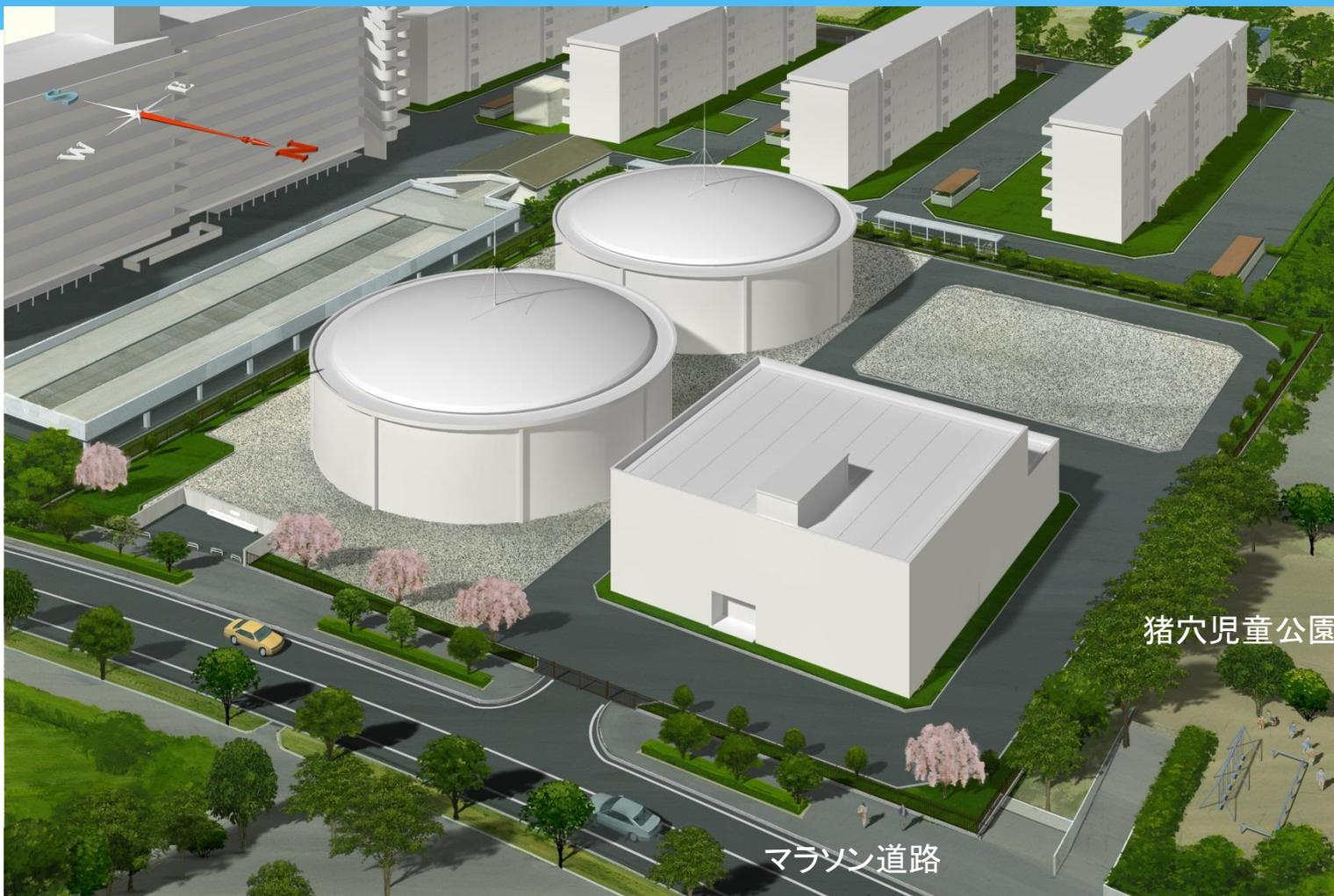


第1給水場施設配置図

(仮)第4給水場 完成予定図



(仮)第4給水場 全体イメージ(概略鳥瞰図)



住民用応急給水栓



住民用応急給水栓イメージ



給水車用水栓イメージ



周辺フェンスのイメージ



例) シャリンバイ(常緑・低木)

植栽のイメージ①



例) マメツゲ(常緑・低木)

植栽のイメージ②

今後の予定

- * 設計業務 ~平成28年3月
 (実施設計)
- * 建設工事 平成28年度~平成31年度